

令和5年度 第3回山梨県地域クラブ活動推進連絡会（概要）

1. 日時 : 令和6年2月5日（月）14時00分から16時00分
2. 場所 : 防災新館 409会議室
3. 参加者 :

| No. | 所 属 | 役 職 | 氏 名 | 備考 |
|-----|------------------------|------------|-------|----------------|
| 1 | 山梨学院大学 スポーツ科学部 | 学部長 | 遠藤 俊郎 | |
| 2 | 山梨大学 大学院総合研究部教育学域人間科学系 | 教授 | 関口 浩文 | |
| 3 | 県小中学校校長会 | 中学部長 | 依田 宏記 | |
| 4 | 県高等学校校長協会 | 会長 | 小林 智 | 代理出席（穴水秀人 幹事長） |
| 5 | 県小中学校体育連盟 | 会長 | 菅谷 信 | 欠席 |
| 6 | 県PTA協議会 | 会長 | 清水 好美 | 欠席 |
| 7 | 県スポーツ推進委員協議会 | 会長 | 飯田 忠子 | |
| 8 | 県スポーツ協会 スポーツ振興 | 課長 | 八巻 智也 | |
| 9 | 県スポーツ指導者協議会 | 会長 | 渡邊 悟 | |
| 10 | 総合型地域スポーツクラブ協議会（SC山梨） | 理事長 | 村松 久義 | 欠席 |
| 11 | 地域スポーツクラブ代表者（VF甲府） | 総合型担当 | 長田 圭介 | |
| 12 | 県吹奏楽連盟 | 理事長 | 仲田 太年 | |
| 13 | 昭和町教育委員会 生涯学習課 | 生涯スポーツ係長 | 深川 慶太 | |
| 14 | 県スポーツ振興課 | 課長 | 岡田 孝秀 | |
| 15 | 県教育庁総務課 教育企画室 | 室長 | 岩出 修司 | |
| 16 | 県教育庁義務教育課 | 課長 | 小池 孝二 | |
| 17 | 県教育庁高校教育課 | 課長 | 萱沼 恵光 | 欠席 |
| 18 | 県教育庁特別支援教育・児童生徒支援課 | 課長 | 鷹野 美香 | |
| 19 | 県教育庁保健体育課 | 課長 | 山田 芳樹 | |
| 20 | 県教育庁保健体育課 | 総括コーディネーター | 荻野 昭彦 | |

【事務局】

| | | | | |
|----|-------------------------|-----|--------|----|
| 21 | 県スポーツ振興課 主幹 | 事務局 | 米山 正仁 | 欠席 |
| 22 | 県スポーツ振興課・生涯スポーツ担当 主幹 | 事務局 | 飯野 泰司 | |
| 23 | 文化振興・文化財課・文化芸術振興担当 課長補佐 | 事務局 | 渡辺 忠正 | |
| 24 | 文化振興・文化財課・文化芸術振興担当 主事 | 事務局 | 早川 雄貴 | |
| 25 | 県教育庁義務教育課・教育指導担当 指導主事 | 事務局 | 雨宮 光平 | |
| 26 | 県教育庁保健体育課・総括課長補佐 | 事務局 | 西川 一枝 | |
| 27 | 県教育庁保健体育課・学校体育担当 課長補佐 | 事務局 | 花輪 孝徳 | |
| 28 | 県教育庁保健体育課・学校体育担当 指導主事 | 事務局 | 渡辺 健太郎 | |
| 29 | 県教育庁保健体育課・学校体育担当 指導主事 | 事務局 | 田鹿 欣孝 | |

4. 内容 : (1) 報告

- ① 「休日部活動の地域移行」に関わる研修会について
- ② 本年度の実証事業成果等報告について
- ③ アンケート調査の結果について

(2) 議事

- ① 来年度の方向性について
- ② 県人材バンクシステム運用について

5. 主な発言

- 国はこの実証事業をやりながら、保護者負担や保険の問題等、どのような課題があるか洗い出した上で、その支援を考えていく期間としている。令和8年度以降について、国の動向を注視しながら県としても財政的な措置を検討していく。
- しばらく平日の部活動は続くので先生方に頑張ってもらうことと、新たな地域クラブ活動を誰がどのようにつくっていくかを理解してもらうことが非常に難しい。市町村の実態はそれぞれなので、やり方は全然違う。全国の会議に参加した際、市町村で真似できそうな事例もあったが、ポイントは「キーパーソン」である。熱意のあるキーパーソンがこの改革を進めていくことが重要である。
- 3割の競技力志向の子どもたちは、我々のようなクラブが何とかしていかなければならないが、7割の楽しみ志向の子どもたちの運動機会を確保していくことも考えていかなければならない。大学関係者との連携で、学生たちのアルバイトでの協力も必要になると思うし、そのために人材バンクシステムの活用も出てくると思う。
- 吹奏楽では経費や楽器や施設のことを考えると、学校と離れることができない。また、全国での好事例があまりないのが現状である。非常にお金のかかる活動であり、吹奏楽活動から子どもたちや保護者が離れていくことに危惧している。
- 地域移行は「子どもたちをどのように地域で育て、元気にさせる」がテーマである。地域が情熱と熱意をもって、連携・共同の社会をつくっていかなければならない。子どもたちが「この地域で生まれてよかった」と思えるような地域にならないといけない。また、先生方を支えるのも地域だと思う。それぞれやれることはあるはず。大人社会が子供を見逃さないで、しっかりと子供目線に立ってそれぞれの仕事をしなきゃいけないと思う。

【第3回推進連絡会を終えて】

- 委員の方々からいただいた意見を参考に、「来年度の方向性」を再度見直し、確定していく。
- 県人材バンクシステム運用に向けて、市町村が有効的な活用ができるシステムになるよう、委託業者との打ち合わせを進めていく。
- 2月21日の市町村担当者会では、実証事業6市町の報告を通して、参加担当者の疑問や課題を解消し、県内の各市町村が子どもたちのために前へ進んでいけるよう促す。

